

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 多摩市立多摩第三小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒206-0014

東京都多摩市乞田7 1 2 番地

E-mail

Website http://schit.net/tama/estamadaisan/

幼児児童生徒数 男子 183名 女子 162名 合計 345名

幼児・児童・生徒の年齢 7 歳 ~ 12 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」がバランス良く身に付いた「輝く三小の子」を目指し、以下の目標を設定した。かしこく・正しく・たくましくの3点を学校目標として、ESD 教育活動を通して、地域理解・環境・人権・生命尊重の4つの視点で、ESD の実践を通して他者と積極的にかかわり協働してものごとを進める児童の育成を目標とした。

具体的には、地域理解・環境・人権・生命尊重を柱に、①地域人材・関係機関に関わる活動、②環境に関わる教育、③防災・減災に係わる学習、④未来に係わる学習を行った。

○第3学年「名人に弟子入りふれあいタイム」(35時間)【地域人材・関係機関】

○第4学年「ストップ 地球温暖化」(40時間)【環境】

○第5学年「〇〇気防災計画」(35時間)【防災・減災】

○第6学年「自分さがし(えがこう自分の未来)」(35時間)【未来】

①地域人材・関係機関に係わる学習

本校では、学校と地域とのかかわりが深く、地域行事で「ソーラン節」を踊ったり、「どんど焼」では「ミニどんど」を地域の方々に指導いただき2基作成したりするなど積極的に関わっている。また、地域の方々に来校いただき、「昔遊び」や「ゲートボール」「手芸」「お茶・お花」などで地域の方にご指導いただいている。地域は、子供たちにとって様々な年齢の方と触れ合う事のできる場であり、地域の伝統行事や、継承されてきた文化などを地域の方々と共に学ぶ貴重な場になっている。

②環境に係わる教育

身近な環境問題として地球温暖化に目を向け、自分たちの生活とのかかわりについて知るにより、より良い環境にするために自分たちができることを考え、実践する活動を通して、自分たちの生活に生かそうとする態度を養っていく。環境教育と教科学習の関連では、季節毎の植物の変化を学ぶためにツルレイシをそだてている。また、社会科の学習では、「ごみ」や「水」について学び、生活の中での身近な環境について学習する。

③防災・減災に係わる学習

平成23年に東日本大震災が発生した。7年が経過した現状でも未だに様々な深刻な状況が続いている。地域防災への目を高めるために地域の危険箇所やの把握や自分たちでできる減災について理解を高めていく。防災については市として地域として簡単に答えを出せない状況ではあるが、これからの社会の担い手である子供たちに自分たちの課題として受け止められる学習を重視した。

④未来に係わる学習

校区内にあるデイサービスの方々と交流をもつことで、高齢者を中心に色々な人とかかわる学習を繰り返しながら、相手を思いやる心で他者のために力を発揮し、自分の周りの人たちとともに笑顔で生きようとする子供たちを育てていく。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

該当ありません

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

- 学校経営ビジョンの中に、地域とのつながり（連携）を明文化し、地域と連携してESDを推進することを明確にした。
- ESD全体計画・ESDカレンダーの作成。
- ESDカレンダーで他教科との横断的なかわりを明確にし、学習を推進した。
- 探究的な学習を追求することを重視した。
 - ①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④伝え・表現する
 - ⑤学習の振り返り

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- 体験的活動を重視・マネジメントし、児童が主体的に問題解決を図る授業の工夫と教員の資質の向上を高める。
- 地域連携を深めるために、地域連携コーディネーターをおき、スムーズな連携を図る。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- 活動をもとに、児童の思考をゆさぶる学習への質的転換が少しずつではあるがみられている。
- 地域・保護者に対して、毎年継続して行うことによって、活動のねらいや活動内容について理解を得られている。
- 地域での学習材の開発。
- 異動等により、学習のノウハウが蓄積されない面がみられる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

- 29年度は、学期毎の通知表での個人の学習内容や活動、身に付けた力を個別に知らせることを行い、学校全体としての成果報告等を行っていない。
- 学校便りや学年便り等で、活動の様子を説明している。
- 30年度は、学期毎の通知表での報告と共に、「ESD 新聞」を発行し、各学年の学習内容や活動を定期的に発信していく。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

- 地域乞田貝取ふれあい館との連携。
- 地域学習支援者との連携。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

- 交流先の学校をみつける手段や方法がはっきりしない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

○地域の環境を生かした学習は軌道に乗ってきている。また、地域の学習材を生かした学習の取り組みを推進する共に、地域の学習協力者や保護者の方々の協力を得ながら学習を推進していく。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- 29年度同様、地域連携・環境・人権・生命尊重を柱に4点について学習を進めていく。特に、地域環境を生かした学習や地域人材の活用しての学習は軌道に乗っている。30年度も、地域に目を向けた学習を推進していく。また、地域学習では、地域連携コーディネーターを地域との架け橋とし、連携の重要な位置付けとして捉えていく。
- 本校のESD教育の活動内容等を地域や保護者の方々に説明していく。今年度のからの取り組みとして、ESD教育に関する内容を、学校便りや学年便りとは別にして発行し、周知を図る。